

Jヴィレッジ利活用策等検討会報告書



目次

1 事業目的と調査検討事項	2	3 Jヴィレッジ活用イベントの実施効果	
2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果		3.1 Jヴィレッジ利活用策の効果的実施方法を整理	33
2.1 Jヴィレッジの課題	7	3.2 イベント実施時の波及効果を試算	36
2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果		4 Jヴィレッジ利活用の中期的方向性とアクションプラン	
2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容	9	4.1 Jヴィレッジ利活用の中期的方向性について	45
2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の 検証のための事業者ヒアリング結果	11	4.2 将来像実現のためのアクションプランについて	50
2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策 の課題整理			
・ 施設の運用方針について	16		
・ 全天候型練習場の興行利用化について	25		
2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価	27		

1 事業目的と調査検討事項

目的と背景、及び検討会における検討事項

目的・背景

- Jヴィレッジの復興・再整備に当たっては、新たな魅力として、全天候型練習場、新宿泊棟を整備。Jヴィレッジの全面営業再開(平成31年4月)に合わせて「Jヴィレッジ駅」が開業。
- 2020年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」では男女サッカー日本代表の強化拠点として使用されることが決定。
- これらを契機として、サッカーのみならずラグビーを始めとした各種競技や、音楽イベント等の大規模イベントなどによりJヴィレッジに人を呼び込み、地域にその効果を拡大させる方策について検討する必要がある。

検討事項

左記の目的を果たすため、以下の事項について検討会において検討を行う。

- (1) Jヴィレッジ活用に向けた現状及び課題の整理
- (2) 大規模イベントの利用に向けた課題の整理
- (3) Jヴィレッジへの誘客による波及効果の検証

上記の調査及び検討を通じて、Jヴィレッジが広く、かつ、継続的に活用されることで、将来的にサッカーの聖地のみならず地域交流拠点・復興の象徴として情報発信の拠点となることを目指す。

検討スケジュール

		2018年													2019年												
		10月					11月				12月				1月			2月			3月						
		1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	4	11	18	25
◆ Mile Stone																											
	◆ キックオフ																										
	◆ 第1回検討会																										
	◆ 第1回事務打ち合わせ																										
	◆ 第2回検討会																										
	◆ 第2回事務打ち合わせ																										
	◆ 報告書とりまとめ																										
	◆ 第3回検討会(報告会)																										
Jヴィレッジの課題の検討	次年度以降の実施アイデア出し																										
	事業者へのヒアリング調査																										
	実施可能性・課題の整理																										
	利用ルール策定																										
	全天候型練習場の改修是非検討																										
Jヴィレッジ活用イベントの実施効果検証	次年度実施イベントの検討																										
	波及効果算定																										
Jヴィレッジ利活用の中期的方向性とアクションプラン	アクションプラン策定																										
	各市町村へのヒアリング調査																										
	将来像策定																										

検討会の開催経過

<p>目的</p>	<p>地域に広がるJヴィレッジの利活用促進のため、関係機関に参加いただき、Jヴィレッジの利活用方法等について、検討を行う。</p>	
<p>検討項目</p>	<p>第1回 2018年 10月30日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域活性の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 活用策のニーズ調査の概要説明 ■ Jヴィレッジの運営の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 震災前の売上やホテル稼働状況、イベント実施状況、地域への波及効果 ■ Jヴィレッジの施設設備現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各ピッチの用途に関する制限の明確化 ➢ イベント実施に関する、各施設の法規上の制約
	<p>第2回 2018年 12月20日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ イベント実施主体からの活用ニーズ整理 ■ Jヴィレッジ活用策の具体化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ Jヴィレッジを活用した実施イベント案の検討 ➢ イベント実施時の施設制限による課題の明確化と解決策の検討 ➢ Jヴィレッジへの誘客による地域への波及効果の検討について
	<p>第3回 2019年 3月22日 (報告会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ Jヴィレッジ活用策のまとめ(報告会)

Jヴィレッジ利活用策等検討会委員等一覧

出席者	所属	役職名	氏名(敬称略)
委員長	福島県企画調整部	次長(地域づくり担当)	松本 雅昭
委員	東日本旅客鉄道株式会社水戸支社	計画調整課長	秦 文仁
	株式会社ワンダーファーム	代表取締役	元木 寛
	公益財団法人日本サッカー協会	JFA47都道府県/9地域FA担当部 部長代理	根本 敦史
	株式会社Jヴィレッジ	専務取締役	小野 俊介
	一般財団法人福島県電源地域振興財団	事務局長	小林 弘文
	広野町	復興企画課長	高橋 喜孝
	檜葉町	復興推進課長	猪狩 充弘
	双葉地方町村会	総務企画課長	柴山 貴将
	福島県相双地方振興局	企画商工部副部長(業務担当)	結城 友次
	福島県ふたば復興事務所	所長	鈴木 修二
オブザーバー	株式会社電通東日本福島営業所	所長	本多 剛
	株式会社東北博報堂福島支社	福島復興推進局長	橋本 正次
	株式会社ジェイアール東日本企画水戸支店	副支店長	小嶋 孝志

2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果

2.1 Jヴィレッジの課題

2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果

2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容

2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の検証のための
事業者ヒアリング結果

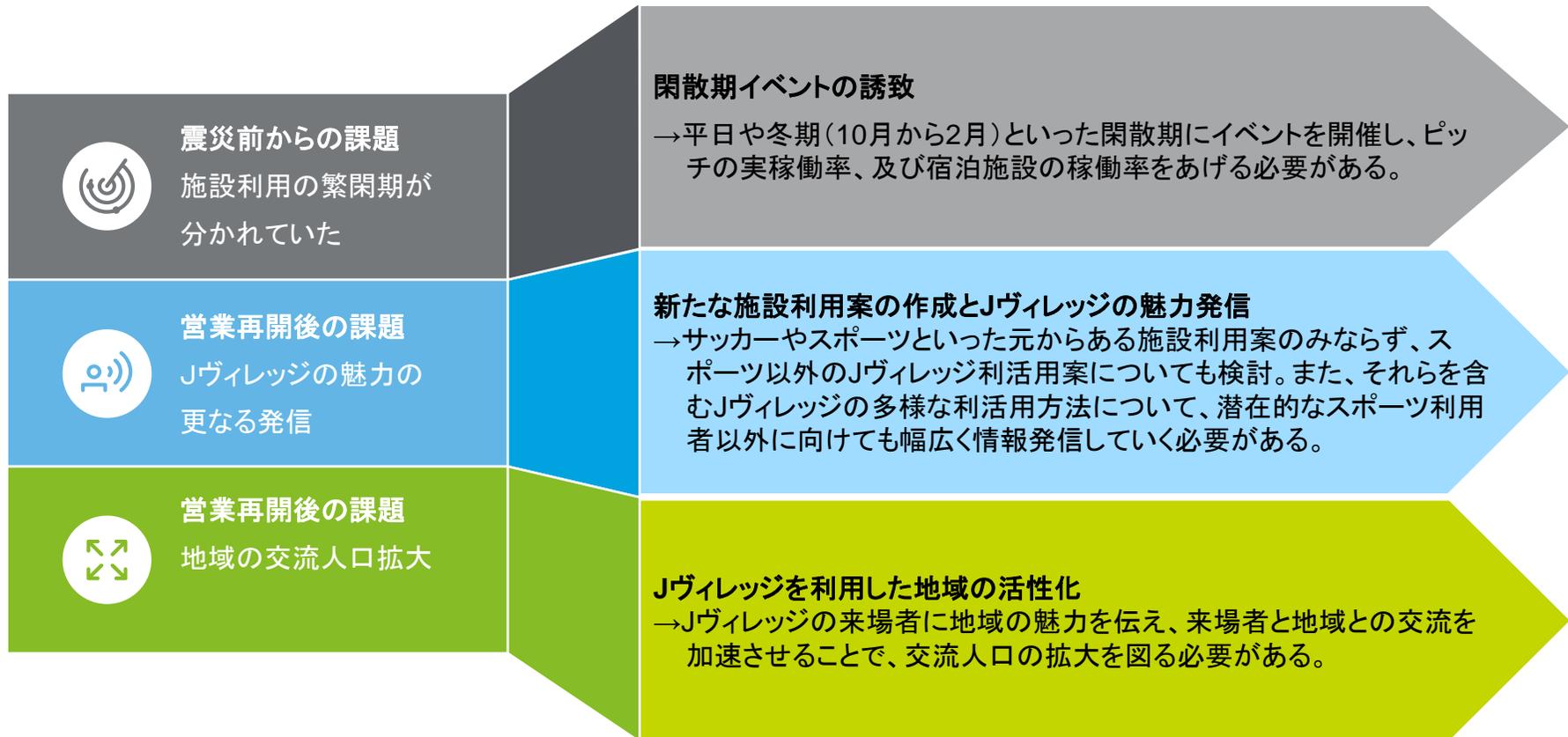
2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策の課題整理

- 施設の運用方針について
- 全天候型練習場の興行利用化について

2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価

震災前と営業再開後において異なる課題が発生。 これらを解決する活用策の継続的な検討が必要。

Jヴィレッジの課題



2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果

2.1 Jヴィレッジの課題

2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果

2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容

2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の検証のための 事業者ヒアリング結果

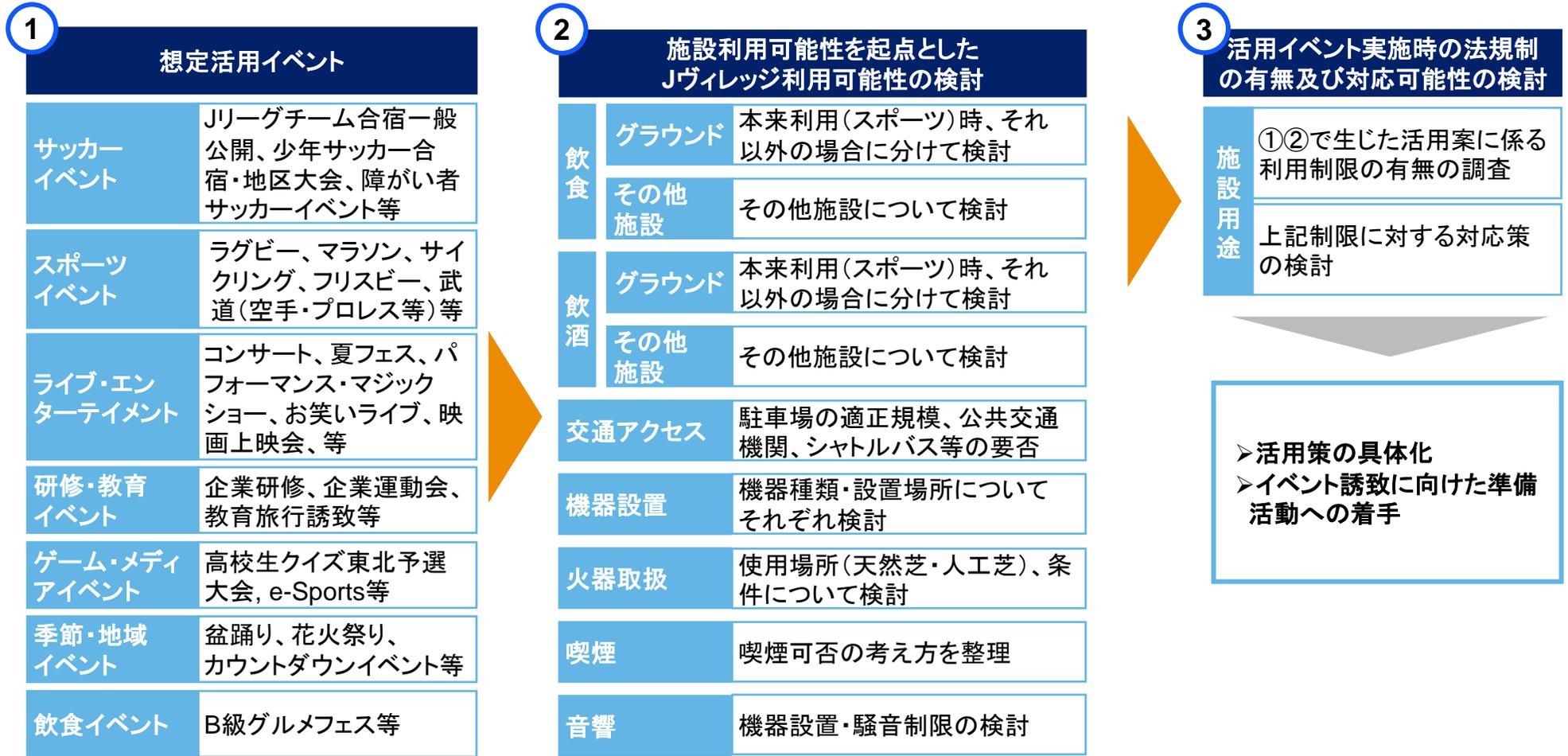
2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策の課題整理

- 施設の運用方針について
- 全天候型練習場の興行利用化について

2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価

Jヴィレッジの利活用策に対する施設利用条件に係る整理を行い、制約及びその解消に向けた施策を明確化

Jヴィレッジにおけるイベント用途検討アプローチ



施設種類別の利用方策、方策実現に向けた課題解決のアクションを導出

2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果

2.1 Jヴィレッジの課題

2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果

2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容

2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の検証のための 事業者ヒアリング結果

2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策の課題整理

- 施設の運用方針について
- 全天候型練習場の興行利用化について

2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価

Jヴィレッジ利活用策の実現可能性を検討するため、イベント実施団体等にヒアリングを実施

ヒアリング調査概要

目的

- イベント実施主体の事業者様、イベント企画運営事業者様へのヒアリングを通じてJヴィレッジでの実施可能性のあるイベント及び事業者様を調査し、実際のイベント誘致につなげる

ヒアリング先 選定の観点

- 自社としてイベントを実施しており、Jヴィレッジにおいてもイベント実施を見込めること（イベント実施主体の事業者様）
- 他社イベント実施の際にJヴィレッジ利用の提案を見込めること（イベント企画運営事業者様）
- 事業者の事業規模がある一定規模以上あること

ヒアリング内容

- 過去実施した主なイベント実績（イベント規模、場所、開催時期、イベント種類）
- 今後のJヴィレッジでのイベント実施可能性（想定実施イベント、イベント実施における課題、実施予算）

ヒアリング後の対応

- イベント実施可否を検討し、実施が見込める団体に対してイベント内容の具体化を図る

Jヴィレッジ利活用策の実現可能性を検討するため、以下の項目でイベント実施団体等にヒアリングを実施

ヒアリング調査項目

大項目	小項目
過去に実施した イベントの概要	1.主イベントの内容
	2.付属イベントの内容
	3.開催場所
	4.使用面積
	5.環境制限(屋内・屋外等)
	6.実施主体者
	7.実施協力者
	8.来場者数
	9.対象ターゲット
	10.実施期間
	11.宿泊の有無
	12.実施頻度
	13.実施季節
	14.平日・休日
	15.時間帯
	16.実施方法
	17.集客方法
	18.予算感
	19.参加費

大項目	小項目
イベント会場決定時の 検討事項	20.イベントスタッフ側に求められるスキル
	21.宿泊施設
	22.イベント会場
	23.アクセス
	24.助成の有無
	25.心理的魅力
	26.身体的魅力
Jヴィレッジ活用案に ついてのご意見	27.会場の最終決定者
	28.Jヴィレッジ活用案のアイデア
	29.Jヴィレッジ活用案検討時の留意点
	30.その他

スポーツ関連、イベント事業者、その他の3分野の団体にヒアリングを実施

分野	名称	主要事業
スポーツ 関連	1. Amazing Sports Lab Japan	サッカースクール、キャンプ、アカデミー事業
	2. NPO法人日本ソーシャルフットボール協会	ソーシャルフットボール(精神障害を持った方のサッカー)の大会の実施。代表チームのサポート
	3. 一般社団法人グローバル・フットボール・マネジメント	サッカースクール事業
	4. 一般社団法人日本CPサッカー協会	CPサッカー(脳性麻痺を持った方のサッカー)の大会実施。代表チームのサポート
	5. 日本障がい者スポーツ協会	日本における障がい者スポーツ大会を実施
イベント 事業者	6. 株式会社ジャパン・スポーツ・プロモーション	サッカー大会の企画・運営
	7. 一般社団法人公園からの健康づくりネット	公園の運営管理。公園内身体づくり教室の実施
	8. 株式会社エスピーコミュニケーションズ	健康・スポーツイベントの実施
	9. 株式会社スポーツワン	スポーツ大会の企画・運営
	10. 株式会社セレスポ	スポーツイベントを含む様々な催事を実施
	11. とみおか夏フェス実行委員会	音楽フェス開催
	12. 檜葉町サマーフェスティバル実行委員会 (檜葉町新産業創造室)	音楽フェス開催
	13. 株式会社サニーサイドアップ	スポーツイベントの実施
その他	14. 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構	ヘルスツーリズムイベントの情報提供プラットフォーム運営
	15. 大手スマホゲーム企業	ゲームやオフラインイベントの企画・制作・運営
	16. 株式会社JCG(ゲーム関連企業)	オンライン・オフラインでのゲーム大会の実施、及び自社プラットフォームでの配信
	17. 株式会社スペースワン(IT・ドローン関連企業)	ドローンスクールの運営。ドローンの販売

イベント実施団体等に行ったヒアリングの結果(抜粋)

カテゴリー	団体名	施設要件			Jヴィレッジが 提供可能な価値	市場性
		宿泊施設	イベント会場	アクセス		
イベント 事業者	株式会社 スポーツ ワン	・イベント主催者(自治体、企業、及び自社)の予算の範囲で宿泊が可能で、かつ必要な部屋数が確保できることが必要。	・イベント実施のための十分な設備が確保できることが必要。 ・会場や周辺自治体からイベント実施の許可をいただけることが必要。	・企業から依頼を受けてイベント実施する際は内容にもよるが、その企業の社員にとってアクセスが悪い場合、要件不適。	・コンベンションホールと全天候型練習場を備えているため、企業研修として、会場利用できる可能性がある。 ・当社主催の音楽フェス要素も取り入れたバブルランを実施することも可能性としてはあり得る。	・当社主催のイベントであれば、会員(全国総数50万人)に向けて宣伝することが可能。 ・スポーツ大会や、ファンラン、運動会等を運営し年間約3,000イベントを当社にて実施。
	檜葉町サマーフェスティバル 実行委員会	・イベント自体で宿泊施設を用意しているわけではなく、遠方からの参加者は各自で周辺地域に宿泊しているため、宿泊施設によって会場を決定してはしない。	・町内で大規模イベントを開催可能である会場が「檜葉町総合グラウンド・陸上競技場」と「天神岬スポーツ公園」しかなく、機材設置の容易さ等から、「天神岬スポーツ公園」が長年利用されている。	・アクセスの良し悪しが会場選定時の判断の決め手とはならない。	・音楽フェス開催のための施設要件を満たせば、イベントを実施可能である。	・2018年度開催時の参加者数は2,000人 ・ここ20年は無料にて実施しているが、それ以前は有料にてイベント実施 ・実施頻度:年に一度実施 ・実施日数:1日間

2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果

2.1 Jヴィレッジの課題

2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果

2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容

2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の検証のための
事業者ヒアリング結果

2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策の課題整理

- 施設の運用方針について
- 全天候型練習場の興行利用化について

2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価

施設利用の判断基準を明確にするため、以下の論点を中心に検討

主な検討事項

- 1. 飲食**
ピッチでは水のみ利用可としているが、その他のドリンクや食べ物をピッチ内に持ち込んで飲食を許可するか。
- 2. 飲酒**
客室のある建物内、及びスタジアムの観客席でのみ飲酒可能としているが、その他の敷地内やピッチ内での飲酒の可否をどのように設定するか。
- 3. 駐車場**
駐車可能台数は847台（檜葉町営駐車場も含む）であるが、大規模イベント実施時には大勢の来場者数に備え、どのような対策を取るべきか。
- 4. 機器設置**
人工芝、天然芝の両ピッチにおいて都度判断としているが、野外音楽イベント等実施のために原則機材を設置可能とするか。
- 5. 火気取扱**
敷地内において火気を使用したイベントはほとんど実績がないが、今後、火気を使用した出店等の出展を可能とするか。
- 6. 喫煙**
アネックス1階の喫煙室のみでは、数千人規模のイベント実施の際にスペースが十分確保できないため、現在ある喫煙スペース以外の喫煙所を屋内外に設置するか。

Jヴィレッジの施設運用方針検討の参考施設一覧

Jヴィレッジ利用ルール検討前の類似施設での利用規約一覧

カテゴリー		Jヴィレッジ	東京ドーム	ひとめぼれスタジアム宮城	J-GREEN堺	鹿島ハイツスポーツプラザ	時之栖スポーツセンター
1. 飲食	1-1. グラウンド	水のみ可能	スポーツ利用時: 不可 コンサート利用時: 可能	水のみ可能	水のみ可能	水のみ可能	水のみ可能
	1-2. その他施設	可能	可能	可能	可能	可能	可能
2. 飲酒	2-1. グラウンド	建物内・スタジアムの観客席でのみ可能	スポーツ利用時: 不可 コンサート利用時: 可能	不可	レストランでのみ可能	建物内でのみ可能	建物内でのみ可能
	2-2. その他施設		可能	可能			
3. 交通アクセス	3-1. 駐車場	847台	670台	5,379台	1,143台	約200台	1,000台以上
	3-2. 公共交通機関	最寄駅(Jヴィレッジ駅)より徒歩4分	最寄駅より徒歩1分(一時間に10~15本)	最寄駅よりバスで10分(約1時間に一本)	最寄り駅よりバスで15分(平日: 3本/1時間、休日: 2本/1時間)	最寄駅よりバスで20分(一日3, 4本)	バス発着がある最寄り駅より20~30分(1日約10本)
4. 機器設置		都度判断	可能	可能	天然芝上: 設置不可 人工芝上: 都度判断	人工芝上: 設置不可	都度相談
5. 火気取扱		全天候施設不可	可能	使用可能	不可	不可	不可
6. 喫煙		喫煙室(アネックス1F)のみ可能	一部の喫煙室でのみ可能	スタジアム内禁煙	一部の喫煙所でのみ可能	一部の喫煙所でのみ可能	一部の喫煙所でのみ可能
7. 音響		制限なし	大音量も可能	対策を講じて実施	都度判断	音響機器の使用不可	都度相談

イベント事業者の会場選定時の判断材料としていただくため、 決定した利用ルールをホームページに掲載し広く周知を図る(1/3)

Jヴィレッジ施設利用ルール①

	ピッチ(1~9番)		全天候型練習場	スタジアム
	天然芝	人工芝	人工芝・2階スタンド	天然芝・建屋内及びスタンド
飲食	<ul style="list-style-type: none"> ・競技利用の際は水のみ可 ・スポーツドリンクはベンチのみ可 ・催事利用の際は都度判断 ・使用後の水や氷の投棄禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技利用の際は水のみ可 ・スポーツドリンクはベンチのみ可 ・催事利用の際は都度判断 ・使用後の水や氷の投棄禁止 	<ul style="list-style-type: none"> 【ピッチ内】 ・左記人工芝と同じ 【2階スタンド】 ・飲食可 	<ul style="list-style-type: none"> 【ピッチ内】 ・左記天然芝と同じ 【建屋内及びスタンド】 ・飲食可
飲酒	<ul style="list-style-type: none"> ・不可 ・催事利用の際は都度判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・不可 ・催事利用の際は都度判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・不可 ・催事利用の際は都度判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・不可 ・催事利用の際は都度判断
駐車場	駐車台数:847台(普通駐車場:822台 大型駐車場:25台) 内訳・ロータリー周辺49台・入口メディカル下185台・サテライト西側30台・大型駐車場15台・北ピッチ64台・全天候練習場109台・芝倉庫前91台・檜葉町駐車場135台 ・スタジアム169台(内大型駐車場:10台)			
機器設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内不可 ・管理用通路は設置可 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内は軽量物は設置可 ・ピッチ周辺は設置可 ・管理用通路は設置可 ※極端に重い物は除く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内は軽量物は設置可 ・ピッチ周辺は設置可 ・2階スタンドは設置可 ※極端に重い物は除く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内は軽量物は設置可 ・ピッチ周辺は設置可 ・スタンドは設置可 ※極端に重い物は除く
火器取扱	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内、周辺も原則禁止 ※十分に安全対策が図られていることを条件に例外的に許可する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内、周辺も原則禁止 ※十分に安全対策が図られていることを条件に例外的に許可する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内、周辺も原則禁止 ※十分に安全対策が図られていることを条件に例外的に許可する場合もある
喫煙	<ul style="list-style-type: none"> ・禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・禁止
AED	<ul style="list-style-type: none"> ・常設なし ※都度、設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・常設なし ※都度、設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・常設あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・常設なし ※都度、設置
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内はスポーツシューズ以外での入場は原則禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内はスポーツシューズ以外での入場は原則禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内はスポーツシューズ以外での入場は原則禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチ内はスポーツシューズ以外での入場は原則禁止

イベント事業者の会場選定時の判断材料としていただくため、 決定した利用ルールをホームページに掲載し広く周知を図る(2/3)

Jヴィレッジ施設利用ルール②

	屋外施設(ピッチを除く)		
	駐車場	構内道路	その他
飲食	・特に制約なし ※ブース等出店は許可が必要	・特に制約なし ※ブース等出店は許可が必要	・センターハウス内は飲食可(場所指定) ・ピッチ管理棟内は飲食可(場所指定) ・スタジアム観客席は飲食可(場所指定) ・全天候型練習場観客席は飲食可(場所指定)
飲酒	・特に制約なし ※ブース等出店は許可が必要	・特に制約なし ※ブース等出店は許可が必要	・センターハウス内は飲酒可(場所指定) ・スタジアム観客席は飲酒可(場所指定)
駐車場	駐車台数:847台(普通駐車場:822台 大型駐車場:25台) 内訳・ロータリー周辺49台・入口メディカル下185台・サテライト西側30台・大型駐車場15台・北ピッチ64台・全天候練習場109台・芝倉庫前91台・檜葉町駐車場135台・スタジアム169台(内大型駐車場:10台)		・駐車場以外の場所への駐車及び停車は事業者の許可が必要
機器設置	・車両駐りに影響が無い範囲で設置可	・設置可 ※ブース等設置は事業者の許可が必要	・設置可 ※但しブース等設置は事業者の許可が必要 ・一部、インターネット接続可
火器取扱	・原則禁止 ※十分に安全対策が図られていることを条件に例外的に許可する場合もある	・原則禁止 ※十分に安全対策が図られていることを条件に例外的に許可する場合もある	・原則禁止 ※十分に安全対策が図られていることを条件に例外的に許可する場合もある
喫煙	・禁止	・禁止	・喫煙の指定されている場所でのみ喫煙可 ※常設:ホテル棟内 臨時:ピッチ周辺
AED	・設置なし	・設置なし	・センターハウス内、全天候練習場内に常設
その他	・施設利用者以外の駐車は禁止 ・大会やイベント等により駐車制限をかける場合あり	・車、オートバイ、自転車等の通行は原則禁止 ※作業用車両や設営等で使用する車両は通行可(事前の許可が必要)	・無人航空機(ドローン)飛行は事前に飛行許可申請書の提出が必要 ・セグウェイ等のモビリティ使用は事前の許可が必要

イベント事業者の会場選定時の判断材料としていただくため、 決定した利用ルールをホームページに掲載し広く周知を図る(3/3)

Jヴィレッジ施設利用時のお願い

利用時のルール

- ・Jヴィレッジでは、芝への影響やスポーツマンシップの一環として、プレイヤーやその観戦者を含むお客様へピッチ内での振る舞いや服装などに一定のルールを設けさせていただいております。
- ・ご不便をお掛けする場合もございますが、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

Jヴィレッジピッチ内への持ち込みをお断りしているもの(持込禁止物)

- ・銃砲刀剣類、花火、爆竹、劇薬物、その他危険物
- ・他のお客様に迷惑を及ぼすおそれのあるもの(著しい悪臭を放つ物、大音響を発する物等)
- ・ビン、缶、凍らせたペットボトル類
- ・ペット(身体障がい者補助犬を除く)
- ・過度な観覧場所確保を目的とする物
- ・観覧場所の範囲を超えるサイズの大きなお荷物
但しベビーカーは除く。ベビーカーの安全確保は保護者が責任を持って行ってください。
- ・Jヴィレッジや主催者、その関係者が競技・催事進行、施設管理運営の妨げとなる、若しくは危険となる
または、他のお客様に迷惑を及ぼすと判断する物品

利用をお断りする方

- ・暴力団やこれに類する反社会的団体所属者及びこれらと密接な関係を有する者
- ・Jヴィレッジや主催者、その関係者が利用を禁止し、もしくはお断りした方
- ・利用の手続きもしくは申込みが済んでいない方
- ・利用ルールに従うことができない方
- ・著しく酒気を帯びた方

その他

- ・ゴミ類はお持ち帰り下さい
- ・強い臭いが発生する飲食物はお断りする場合がございます

お断りしている行為(禁止行為)

- ・粗暴行為(暴言、脅迫、恐喝、威嚇、暴力等)
- ・施設・設備の損壊、毀損
- ・屋内外施設、駐車場、敷地内道路、ピッチ内、その他への物投げ行為
- ・立入禁止場所への立入行為
- ・防球ネット、フェンス、柵、手摺り、キャットウォーク等へよじ登ったり、ぶら下がったりする行為
- ・観覧場所や席の確保に関し、他のお客様に対して金品その他の利益を求める行為
- ・Jヴィレッジや主催者の許可なしに行う物品販売、チラシ配布、アンケート等
- ・Jヴィレッジや主催者の許可なしに行う無人航空機の飛行(トイドローンも含む)
- ・定められた場所以外への無断駐車
- ・みだりに奇声を上げ騒音を出す行為
- ・フラッシュ、光線、その他これらに類するものを使用した、競技や催事等進行妨害のおそれのある行為
- ・紙テープ、紙ふぶき、ジェット風船の使用
- ・他のお客様に迷惑を及ぼす行為
- ・Jヴィレッジや主催者、その関係者が競技・催事進行、施設管理運営の妨げとなる、若しくは危険となる
または、他のお客様に迷惑を及ぼすと判断する行為

履物について

- ・Jヴィレッジピッチ内は天然芝・人工芝を問わず、スポーツ用シューズでお入りください。
但し、ピッチ内の管理用通路や指定の観覧場所は除きます。
- ・センターハウス内へのスパイクでの立入りは禁止しています。

喫煙について

- ・Jヴィレッジでは、指定された喫煙場所以外を除き、屋内外ともに禁煙となっております。
お煙草を吸われる方は、喫煙室または指定喫煙所をご利用ください。指定喫煙場所は催事によって変更される場合があります。

イベント実施時の駐車場確保に向けた継続検討が必要

現状と課題、及び今後の対応策

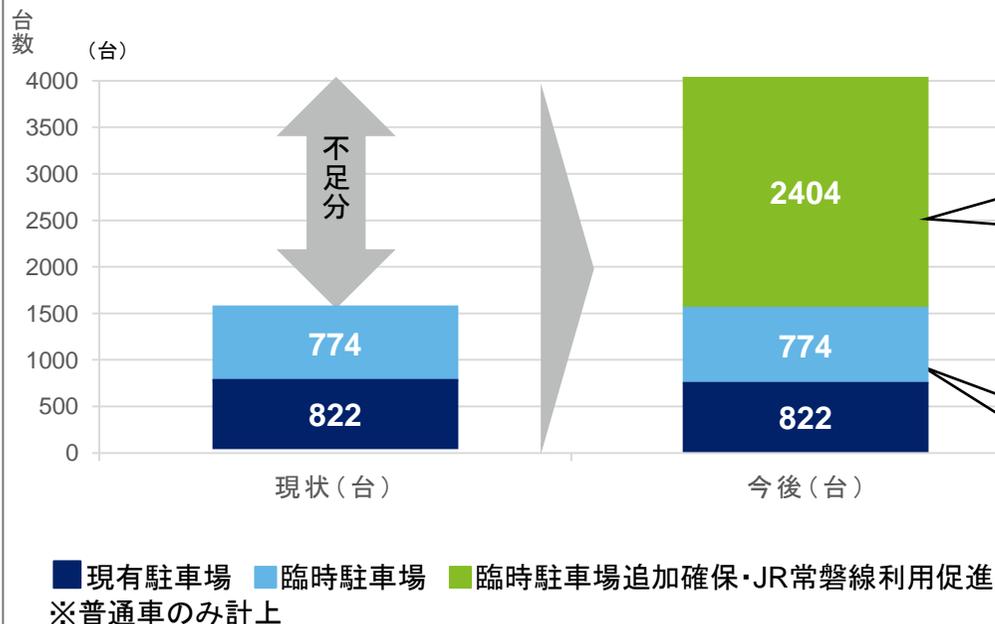
現状

- ▶Jヴィレッジでのイベント開催時の来場者は、主に自動車を使って来場。
- ▶Jヴィレッジのみで駐車場が不足する場合には、近隣のニツ沼総合公園や檜葉工業団地の空きスペースを臨時で借用し、シャトルバスを走らせることで対応。

課題

- ▶今後、大規模イベントを実施する際の想定最大来場者数に対応できるよう駐車場を確保する必要がある。
- ※「Jヴィレッジ音楽フェス」(今後実施予定、来場目標15,000人のうち車で来場は4,000台)開催時を最大と想定。
- ※常設駐車場の増設の必要性についても検討が必要。

イベント等を想定した際の駐車場確保策



1

新規での対応策

・臨時駐車場の追加確保

休日の檜葉町工業団地の工場従業員向け駐車場の借用など、追加の臨時駐車場確保を検討。

・JR常磐線を利用した来訪促進

JR常磐線を利用した来場をイベント広報、及び案内時に訴求。

2

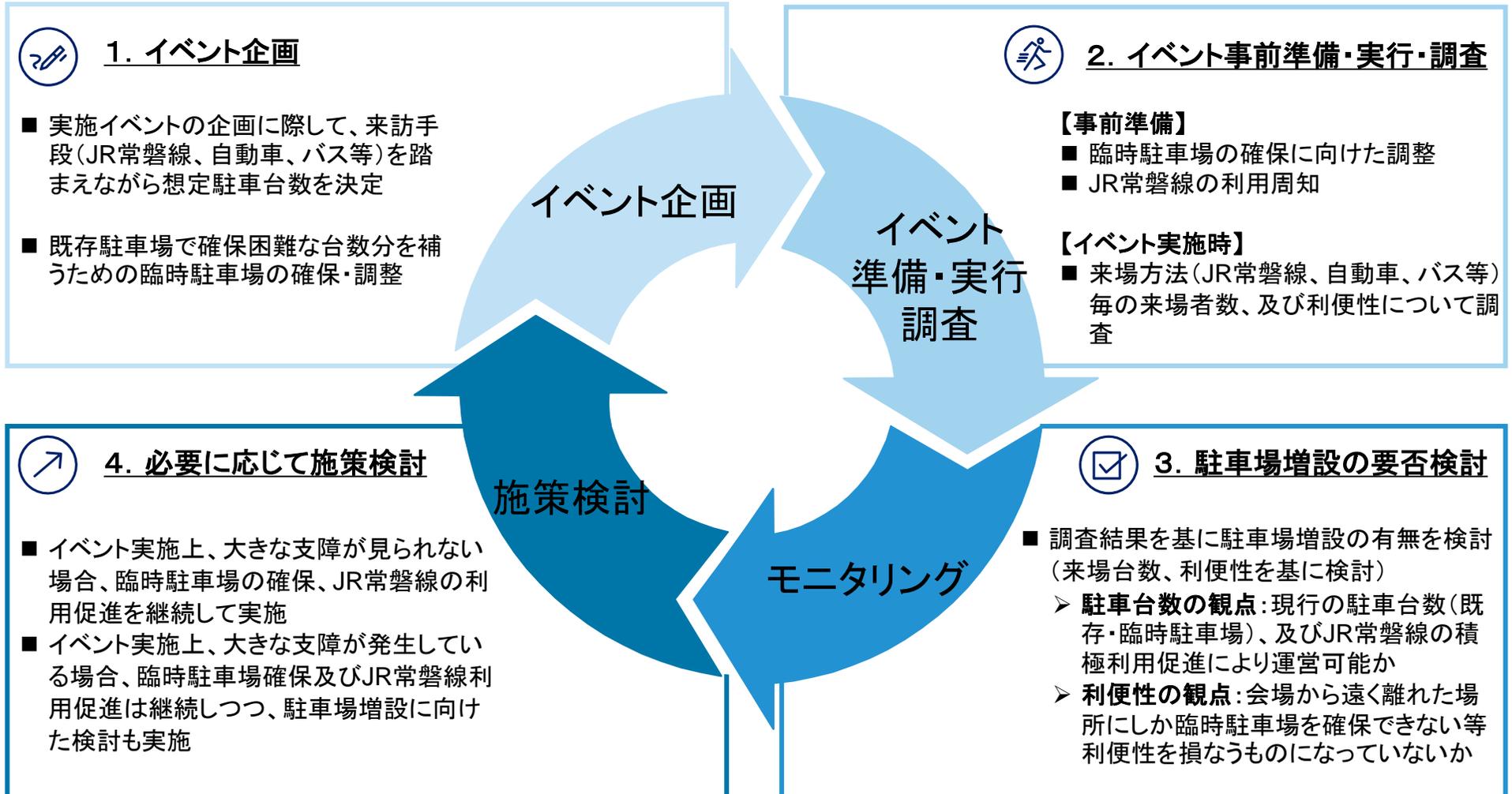
従来からの対応策

臨時駐車場利用

ニツ沼総合公園、広野町サッカー場を臨時駐車場として借用し、Jヴィレッジまでシャトルバスを運行。

今後のイベント実施状況を踏まえ、将来の駐車場運用の方向性を検討

駐車場運用の継続検討方法



Jヴィレッジでの大規模イベント実施時に利用可能な駐車場(1,641台(大型含む))

常設

Jヴィレッジ(檜葉町側)

普通	663台
大型	15台

常設

Jヴィレッジスタジアム

普通	159台
大型	10台

臨時借用

広野町サッカー場

普通	40台
大型	10台

臨時借用

ニツ沼総合運動公園

普通	734台
大型	10台



2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果

2.1 Jヴィレッジの課題

2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果

2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容

2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の検証のための
事業者ヒアリング結果

2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策の課題整理

- 施設の運用方針について
- 全天候型練習場の興行利用化について

2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価

全天候型練習場を、興行利用する場合の課題

全天候型練習場の興行利用時の論点

現状

建物の用途区分がスポーツ練習場であるとともに、収容人数が300人未満で、かつスポーツ関連イベント(観覧を伴わないもの)のみ実施可能

興行利用時の論点

建物の用途区分を集会場、もしくは観覧場として、スポーツ以外にも興行利用可能な施設に改修することが必要
※1カ月間のイベント興行実施回数によって改修箇所が変動

関係法令	論点	状況
建築基準法	排煙設備、非常用照明の設置、建物用途の変更に伴う内装材の適用性能の変更有無について確認を行う必要がある。	検証・改修が場合によっては必要となる
消防法	非常用放送設備、屋内・屋外消火栓の非常電源(自家発電設備)の設置、全誘導灯のB級以上への改修(誘導音付点滅型誘導灯の設置が推奨)について確認を行う必要がある。	改修が必要
興行場法	ねずみ、昆虫侵入防止金網、ゴミの集積場の設置、観客席・休憩室等の照度アップ、空調設備の設置、トイレの増設について確認を行う必要がある。	月5回未満の興行利用であれば、改修の必要なし
建築基準法 県条例	客用階段の避難階段、もしくは非常用避難階段への変更について確認を行う必要がある。	改修が必要
都市計画法	開発許可の変更申請を行う必要がある。	変更申請が必要

2 Jヴィレッジの課題、及び課題の検討結果

2.1 Jヴィレッジの課題

2.2 Jヴィレッジの課題の検討結果

2.2.1 検討会にて議論された実施モデルの検討内容

2.2.2 Jヴィレッジ利活用策の実現可能性の検証のための
事業者ヒアリング結果

2.2.3 ヒアリングから見える今後のJヴィレッジ利活用策の課題整理

- 施設の運用方針について
- 全天候型練習場の興行利用化について

2.2.4 Jヴィレッジ利活用アイデアの実現可能性評価

第1回検討会、及びヒアリング先でいただいたアイデアの実現可能性について ヒアリングを基に①施設要件の具備、②優位性、③市場性の3観点で評価

分類	イベント名	施設要件の具備	優位性 (立地、提供価値、コスト)	市場性 (事業者数、イベント 規模、頻度)	収益性	優先度 (※参考)
サッカー	シニア向けサッカー全国・地方大会	○	○	○	○ ピッチ利用 宿泊を伴う	高
	社会人向けサッカー全国・地方大会	○	○	○		高
	学生向けサッカー全国・地方大会	○	○	○		高
	海外チームを呼んでの合宿	○	○	△		高
	超有名選手のサッカーイベント	○	× 立地面で劣る、独自の 提供価値が少ない	△	△ 選手への報酬額 が多大	低
	CPサッカーの利用 (脳性まひ者を対象としたサッカー)	○	△ 競技者の都合上国内大会 は実施不可。世界大会は 実施可。 〔既存大会の費用 と比較すると割高〕	×	○ ピッチ利用 宿泊を伴う	低

【凡例】

- 施設要件の具備:「○」:完全に具備、「△」:一部具備、「×」:全く具備していない
- 優位性:「○」:優位性がある、「△」:一部の観点において優位性がない、「×」:全く優位性がない
- 市場性(競技団体、もしくは競技者数)
「○」:約1万人もしくは約100団体以上でかつ収益性があるもの(宿泊、食事等あり)、「△」:約5千人以上1万人未満、もしくは約10団体以上約100団体未満、「×」:約5千人未満、もしくは約5団体未満(どちらかが上位評価に含まれていれば、そちらを適用)
- 収益性:宿泊施設、レストラン、及びピッチ利用があり、収支が黒字となる見込みの大きい場合は「○」、収支が完全に赤字となるものは「×」、イベント内容により収支バランスが不明瞭なものは「△」
- 優先度:×が一つ以上:「低」、○が三つ以上で×がないもの:「高」、その他:「中」

第1回検討会、及びヒアリング先でいただいたアイデアの実現可能性について ヒアリングを基に①施設要件の具備、②優位性、③市場性の3観点で評価

分類	イベント名	施設要件の具備	優位性 (立地、提供価値、コスト)	市場性 事業者数、 イベント規模、頻度	収益性	優先度 (※参考)
サッカー	ソーシャルフットボール の大会 (精神障がい者を対象 としたサッカー)	○ 屋内でフットサルコート 2面確保が最適	○	△	○ ピッチ利用 宿泊を伴う	高
その他スポーツ	ラグビー合宿・大会 (全国大会)	△	△	○	○ ピッチ利用 宿泊を伴う	中
	ラグビー合宿・大会 (地方大会)	△	○	△		中
	駅伝の合宿	○	× 知名度が低い	○	○ 宿泊を伴う	低
	自転車レースの大会・ フェスティバル	× コースが無く、周辺 自治体と協力が必要	△ 知名度が低い	○	○ 参加費を徴収 宿泊も伴う可能性あり	低

【凡例】

- 施設要件の具備:「○」:完全に具備、「△」:一部具備、「×」:全く具備していない
- 優位性:「○」:優位性がある、「△」:一部の観点において優位性がない、「×」:全く優位性がない
- 市場性(競技団体、もしくは競技者数)
「○」:約1万人もしくは約100団体以上でかつ収益性があるもの(宿泊、食事等あり)、「△」:約5千人以上1万人未満、もしくは約10団体以上約100団体未満、「×」:約5千人未満、もしくは約5団体未満(どちらかが上位評価に含まれていれば、そちらを適用)
- 収益性:宿泊施設、レストラン、及びピッチ利用があり、収支が黒字となる見込みの大きい場合は「○」、収支が完全に赤字となるものは「×」、イベント内容により収支バランスが不明瞭なものは「△」
- 優先度:×が一つ以上:「低」、○が三つ以上で×がないもの:「高」、その他:「中」

第1回検討会、及びヒアリング先でいただいたアイデアの実現可能性について ヒアリングを基に①施設要件の具備、②優位性、③市場性の3観点で評価

分類	イベント名	施設要件の具備	優位性 (立地、提供価値、コスト)	市場性 〔事業者数、 イベント規模、頻度〕	収益性	優先度 (※参考)
その他スポーツ	アルティメットの大会	○	○	△	○ ピッチ利用 宿泊を伴う	高
	パークゴルフ 全国大会	○	△	○ 競技者は全国で 124万人	○ 宿泊を伴う	高
	パークゴルフ 地域大会	○	△	△	△ 宿泊がなければ 施設利用がない	中
	障がい者スポーツ 競技会	△ 屋内スポーツ、陸上競技 場を使用しての可能競技 数に限りがある	× 移動の不便さ、専用の陸 上競技施設と屋内競技施 設を備えていない	△	○ 施設利用 宿泊を伴う	低

【凡例】

- 施設要件の具備:「○」:完全に具備、「△」:一部具備、「×」:全く具備していない
- 優位性:「○」:優位性がある、「△」:一部の観点において優位性がない、「×」:全く優位性がない
- 市場性(競技団体、もしくは競技者数)
「○」:約1万人もしくは約100団体以上でかつ収益性があるもの(宿泊、食事等あり)、「△」:約5千人以上1万人未満、もしくは約10団体以上約100団体未満、「×」:約5千人未満、もしくは約5団体未満(どちらかが上位評価に含まれていれば、そちらを適用)
- 収益性:宿泊施設、レストラン、及びピッチ利用があり、収支が黒字となる見込みの大きい場合は「○」、収支が完全に赤字となるものは「×」、イベント内容により収支バランスが不明瞭なものは「△」
- 優先度:×が一つ以上:「低」、○が三つ以上で×がないもの:「高」、その他:「中」

第1回検討会、及びヒアリング先でいただいたアイデアの実現可能性について ヒアリングを基に①施設要件の具備、②優位性、③市場性の3観点で評価

分類	イベント名	施設要件の具備	優位性 (立地・提供価値・コスト)	市場性 事業者数、 イベント規模、頻度	収益性	優先度 (※参考)
スポーツ 以外	コンサート・ 音楽イベント	△ 施設改修の要否について 関係法令の踏まえた精査 が必要	△ 立地面で劣る	○	△ 出演者、内容により 消費行動が変化	中
	お笑いライブ			○		中
	ゲームイベント (大会)の誘致		×	○	×	設営費用、 選手報酬が多大
	企業の研修 コンベンション	○	△ 知名度が低い 、立地面で劣る	○	○ 宿泊を伴う	高
	ホープツアー (震災学習を実施)	○	○	○	○ 宿泊を伴う	高
	勉強合宿	○	△ 提供可能な付加 価値が小さい	○		高

【凡例】

- 施設要件の具備:「○」:完全に具備、「△」:一部具備、「×」:全く具備していない
- 優位性:「○」:優位性がある、「△」:一部の観点において優位性がない、「×」:全く優位性がない
- 市場性(競技団体、もしくは競技者数)
「○」:約1万人もしくは約100団体以上でかつ収益性があるもの(宿泊、食事等あり)、「△」:約5千人以上1万人未満、もしくは約10団体以上約100団体未満、「×」:約5千人未満、もしくは約5団体未満(どちらかが上位評価に含まれていれば、そちらを適用)
- 収益性:宿泊施設、レストラン、及びピッチ利用があり、収支が黒字となる見込みの大きい場合は「○」、収支が完全に赤字となるものは「×」、イベント内容により収支バランスが不明瞭なものは「△」
- 優先度:×が一つ以上:「低」、○が三つ以上で×がないもの:「高」、その他:「中」

委員、及びヒアリング先でいただいたイベントアイデアの実現可能性について ヒアリングを基に①施設要件の具備、②優位性、③市場性の3観点で評価

分類	イベント名	施設要件の具備	優位性 (立地・提供価値・コスト)	市場性 〔事業者数、 イベント規模、頻度〕	収益性	優先度 (※参考)
スポーツ以外	バーベキュー・ ビアガーデン	○	○	△ 地元の方を対象とするため、 市場規模が限定的	○	高
	体力測定イベント	○	△ 十分な施設設備を備えているが、 立地において優位性がない	△ 地元の方を対象とするため、 市場規模が限定的	× イベント単体での 収益は赤字	低
	ヘルスツーリズム の施設として食事、 運動、休養を提供	○	△ 宿泊施設及び食事は用意されて いるが、徒歩で散策する周辺施 設が寡少	○	○ 施設登録に費用 がかかるが、その 後の追加費用は なく広報が可能	高
	公園として活用	× 遊具等がない	△ 近隣にニツ沼総合公園があり、 優位性で劣る	△ 多くの潜在顧客が存在する 訳ではない	× (収益源がない)	低

【凡例】

- 施設要件の具備:「○」:完全に具備、「△」:一部具備、「×」:全く具備していない
- 優位性:「○」:優位性がある、「△」:一部の観点において優位性がない、「×」:全く優位性がない
- 市場性(競技団体、もしくは競技者数)
「○」:約1万人もしくは約100団体以上でかつ収益性があるもの(宿泊、食事等あり)、「△」:約5千人以上1万人未満、もしくは約10団体以上約100団体未満、「×」:約5千人未満、もしくは約5団体未満(どちらかが上位評価に含まれていれば、そちらを適用)
- 収益性:宿泊施設、レストラン、及びピッチ利用があり、収支が黒字となる見込みの大きい場合は「○」、収支が完全に赤字となるものは「×」、イベント内容により収支バランスが不明瞭なものは「△」
- 優先度:×が一つ以上:「低」、○が三つ以上で×がないもの:「高」、その他:「中」

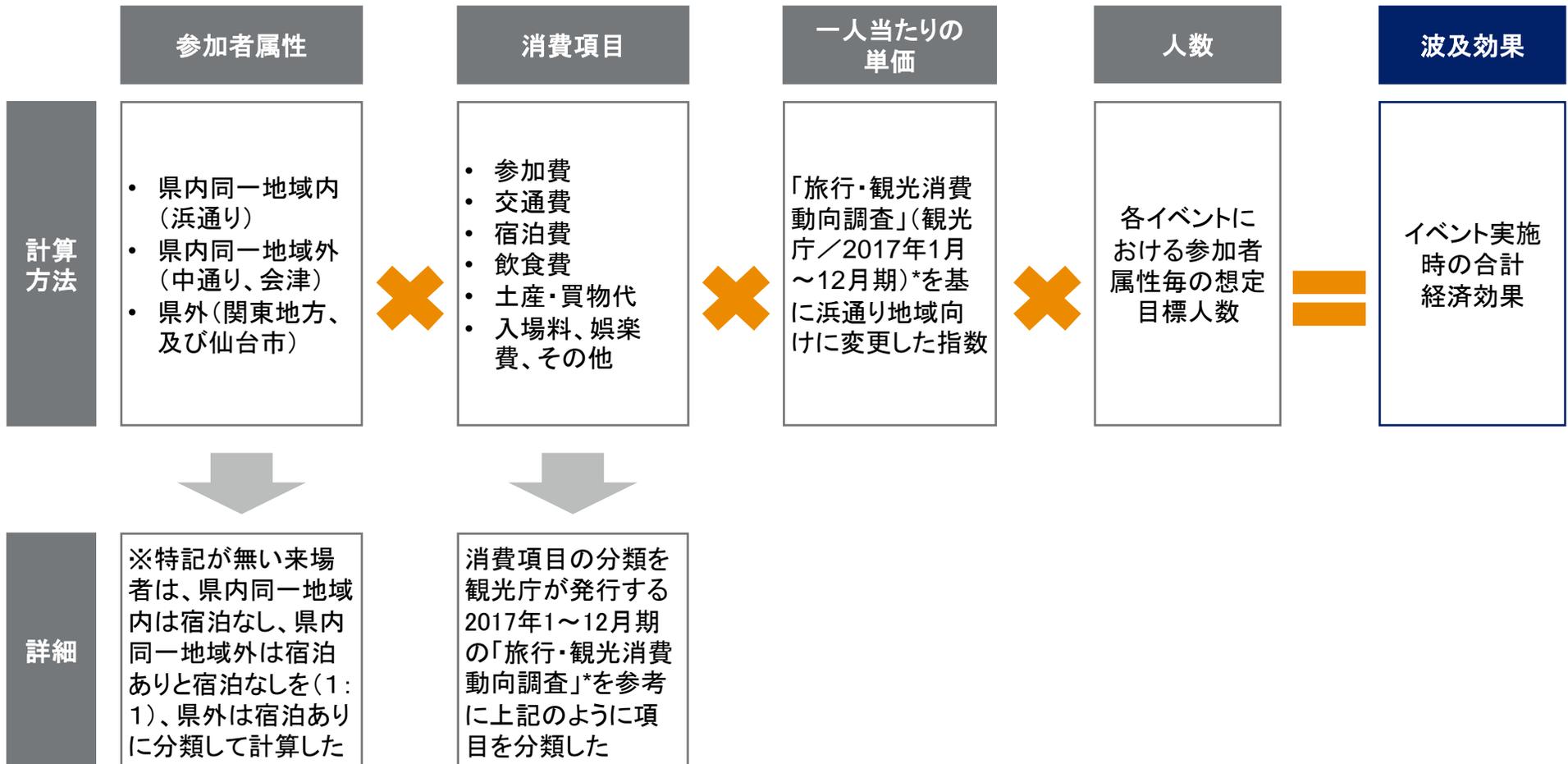
3 Jヴィレッジ活用イベントの実施効果

3.1 Jヴィレッジ利活用策の効果的実施方法を整理

3.2 イベント実施時の波及効果を試算

イベント毎に参加者数と消費行動を想定し、イベント実施時の波及効果を算定

波及効果算定方法



*出所：観光庁Webサイト

各イベントの波及効果を6つの支出先に分類し、各支出毎に支出額を試算

波及効果算定方法(計算)

支出先	支出先(詳細)	計算方法	備考
1 参加費		単価 × 大人(子ども)の想定参加者数	
2 交通費	車 <ul style="list-style-type: none"> ガソリン 高速道路代 	平均ガソリン使用量 × ガソリン単価 × 各カテゴリーからの参加者のうち想定車利用者数 ÷ 車一台に乗車すると想定される人数	※1 イベント毎に参加者を以下カテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーの支出額を概算 ① 県内同一地域内 ② 県内同一地域外 ③ 県外 ※2 県内同一地域内の半数と県外からの参加者全員が宿泊すると想定
		平均単価 × 各カテゴリーからの参加者のうち想定車利用者数 ÷ 車一台に乗車すると想定される人数	
	電車	平均単価 × 各カテゴリーからの参加者のうち想定電車利用者数 × 大人(子ども)の割合	
	バス	平均単価 × 各カテゴリーからの参加者のうち想定バス利用者数 × 大人(子ども)の割合	
電車・バス	平均単価 × 各カテゴリーからの参加者のうち想定電車・バスの利用者数 × 大人(子ども)の割合		
3 宿泊費		平均単価 × 想定宿泊者数	
4 飲食費		毎食の想定単価 × 各カテゴリー毎の想定人数 × 食事回数	
5 土産・買物代		泊なし(泊あり)旅行者の平均単価 × 各カテゴリー毎の想定人数	
6 入場料・娯楽費・その他		泊なし(泊あり)旅行者の平均単価 × 各カテゴリー毎の想定人数	

3 Jヴィレッジ活用イベントの実施効果

3.1 Jヴィレッジ利活用策の効果的実施方法を整理

3.2 イベント実施時の波及効果を試算

検討会において検討されたイベント実施モデル(1/4)

シニア向けサッカー大会(概要)

1. 名称(仮)
Over45Jヴィレッジシニアカップ
2. 目的
サッカーの聖地として広く認知されているJヴィレッジでシニア向けサッカー大会を発足させ、毎年の恒例行事に育てていくことで、サッカー愛好家からの認知度向上・来客を図る。
3. 実施内容
大会ルールは「JFA全日本O-50サッカー大会ルール」に基づき、45歳以上クラス・50歳以上クラス等のカテゴリー別サッカー大会を実施
4. 実施時期
シニアサッカー大会が全国的に行われず、全天候型練習場利用の需要が高まる雨季や冬期
(1泊2日。来場者のうち、選手は全員が宿泊することを想定)
5. 実施会場
Jヴィレッジ(人工芝ピッチ、天然芝ピッチ、全天候型練習場)
6. 対象者及び想定参加者数
・福島県内外にあるシニア層のサッカーチーム(選手:1チーム20名)約16チームから選手、及び家族が延べ440名参加
・2日間で延べ約100名の関係者及び観客を動員

7. 後援
地元教育委員会、商工会、媒体各社 等
8. 協賛
スポーツ関連企業 等
9. 協力
サッカー関連団体
10. 広報
報道機関への告知等
11. 準備期間
半年



写真引用: JFA全日本O-50サッカー大会Webサイト

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(1/4)

シニア向けサッカー大会(1回当たりの波及効果)

		人数 (人)	参加費 (円)	交通費 (円)	宿泊費 (円)	飲食費 (円)	土産・買物 代(円)	入場料・娯楽 代・その他(円)	合計 (円)
県内	同一地域内 (浜通り地区)	105	600,000	185,325	336,000	760,000	282,565	145,965	2,309,855
	同一地域外 (中通り・会津地区)	65	600,000	366,405	441,000	706,250	214,393	102,675	2,430,723
県外		370	3,600,000	2,811,075	3,108,000	4,625,000	1,321,640	616,050	16,081,765
合計		540	4,800,000	3,362,805	3,885,000	6,091,250	1,818,598	864,690	20,822,343

※選手は全員が宿泊する想定

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(2/4)

マラソン大会(概要)

1. 名称(仮)
THE FUKUSHIMA MARATHON
2. 目的
双葉郡の各地を回るマラソン大会を実施することで、来訪者に地域の魅力を味わっていただくと共に、周辺地域との交流促進を目指す。
3. 実施内容
 - ・フルマラソン、ハーフマラソン、10km、5km等距離や年齢によるカテゴリー分けを行い、双葉郡を巡るマラソン大会を実施
 - ・大会前日に、Jヴィレッジにてレセプションパーティーを実施
 - ・遠方からの参加者はJヴィレッジにて宿泊
 - ・地元製品の飲食、物販ブースを設置
4. 実施時期
10月～4月の国内マラソンシーズン期の1日
5. 実施会場
Jヴィレッジ及びその近隣市町村
6. 対象者及び想定参加者数
マラソン愛好家、双葉郡とゆかりのある方々、及び近隣地域住民等約3,000名
※別途、ボランティアスタッフとして数百人にご参加いただく

7. 後援
地元教育委員会、商工会、媒体各社 等
8. 協賛
スポーツ関連企業 等
9. 協力
地元警察署及び消防署
10. 広報
報道機関への告知等
11. 準備期間
約1年間



写真引用: JALホノルルマラソン2018Webサイト 写真引用: 神戸マラソン2012Webサイト

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(2/4)

マラソン大会(1回当たりの波及効果)

		人数 (人)	参加費 (円)	交通費 (円)	宿泊費 (円)	飲食費 (円)	土産・買物 代(円)	入場料・娯楽 代・その他(円)	合計 (円)
県内	同一地域内 (浜通り地区)	1,200	3,600,000	3,004,200	0	4,800,000	2,578,800	1,465,200	15,448,200
	同一地域外 (中通り・会津地区)	900	2,700,000	4,959,900	3,780,000	7,425,000	2,574,450	1,298,700	22,738,050
県外		900	2,700,000	6,617,025	7,560,000	11,250,000	3,214,800	1,498,500	32,840,325
合計		3,000	9,000,000	14,581,125	11,340,000	23,475,000	8,368,050	4,262,400	71,026,575

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(3/4)

勉強、研修合宿と組み合わせたホープツーリズム(概要)

1. 名称(仮)
Jヴィレッジを拠点としたホープツーリズム
2. 目的
学習や研修の一環として、来訪者がJヴィレッジ周辺の被災地を巡る中で震災の影響を学ぶことで、震災学習をすると共に地元と来訪者の交流の機会創出を図る。
3. 実施内容
Jヴィレッジに宿泊いただき、Jヴィレッジ内での企業研修や学習を行うと共に、周辺の被災地を巡り、震災学習も同時に実施
4. 実施時期
通年型で土日の2日間(1泊2日、参加者全員宿泊予定)
5. 実施会場
Jヴィレッジ、周辺の震災学習拠点
6. 対象者及び想定参加者数
・高校生、大学生、及び社会人の約50名が1回あたりに参加
・年20回(県内5組、県外15組)実施

7. 協力
観光関連団体
8. 広報
報道機関への告知等
9. 準備期間
約1年間



写真引用:ホープツーリズムWebサイト

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(3/4)

勉強、研修合宿と組み合わせたホープツーリズム(年間(20回)での波及効果)

		人数 (人)	参加費 (円)	交通費 (円)	宿泊費 (円)	飲食費 (円)	土産・買物 代(円)	入場料・娯楽 代・その他(円)	合計 (円)
県内	同一地域内 (浜通り地区)	0	0	0	0	0	0	0	0
	同一地域外 (中通り・会津地区)	250	2,500,000	1,409,250	2,100,000	3,125,000	893,000	416,250	10,443,500
県外		750	7,500,000	5,698,125	6,300,000	9,375,000	2,679,000	1,248,750	32,800,875
合計		1,000	10,000,000	7,107,375	8,400,000	12,500,000	3,572,000	1,665,000	43,244,375

※参加者全員が宿泊する想定

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(4/4)

パークゴルフ大会(概要)

1. 名称(仮)
FUKUSHIMA パークゴルフカップ
2. 目的
全国の競技人口が、124万人ともいわれるパークゴルフの大会をニツ沼総合公園や南相馬市において開催。Jヴィレッジに宿泊いただくことで、これまでJヴィレッジを利用してこなかった方々への認知向上と地域の新たな魅力創出を図る。
3. 実施内容
パークゴルフの大会を周辺パークゴルフ会場にて実施し、Jヴィレッジにて宿泊・レセプションを実施
4. 実施時期
国内のパークゴルフ大会が全国的に行われない時期(一泊二日。来場者の内、選手は全員が宿泊を想定)
5. 実施会場(想定)
Jヴィレッジ、ニツ沼総合公園パークゴルフ場、及び南相馬市パークゴルフ場
6. 対象者及び想定参加者数
・国内のパークゴルフ愛好家約500名
・2日間で延べ約200名の家族、関係者、及び観客が来場
7. 後援
地元教育委員会、商工会、媒体各社 等
8. 協賛
スポーツ関連企業 等
9. 協力
地元警察署及び消防署
10. 広報
報道機関への告知 等
11. 準備期間
約2年間



写真引用: 公益社団法人日本パークゴルフ協会Webサイト

本検討会にて検討されたイベント実施モデル(4/4)

パークゴルフ大会(1回当たりの波及効果)

		人数 (人)	参加費 (円)	交通費 (円)	宿泊費 (円)	飲食費 (円)	土産・買物 代(円)	入場料・娯楽 代・その他(円)	合計 (円)
県内	同一地域内 (浜通り地区)	185	750,000	210,925	630,000	1,817,500	504,290	259,185	4,171,900
	同一地域外 (中通り・会津地区)	155	1,250,000	841,403	1,176,000	1,870,000	532,315	251,415	5,921,133
県外		360	3,000,000	2,735,100	3,024,000	4,500,000	1,285,920	599,400	15,144,420
合計		700	5,000,000	3,787,428	4,830,000	8,187,500	2,322,525	1,110,000	25,237,453

※選手は全員が宿泊する想定

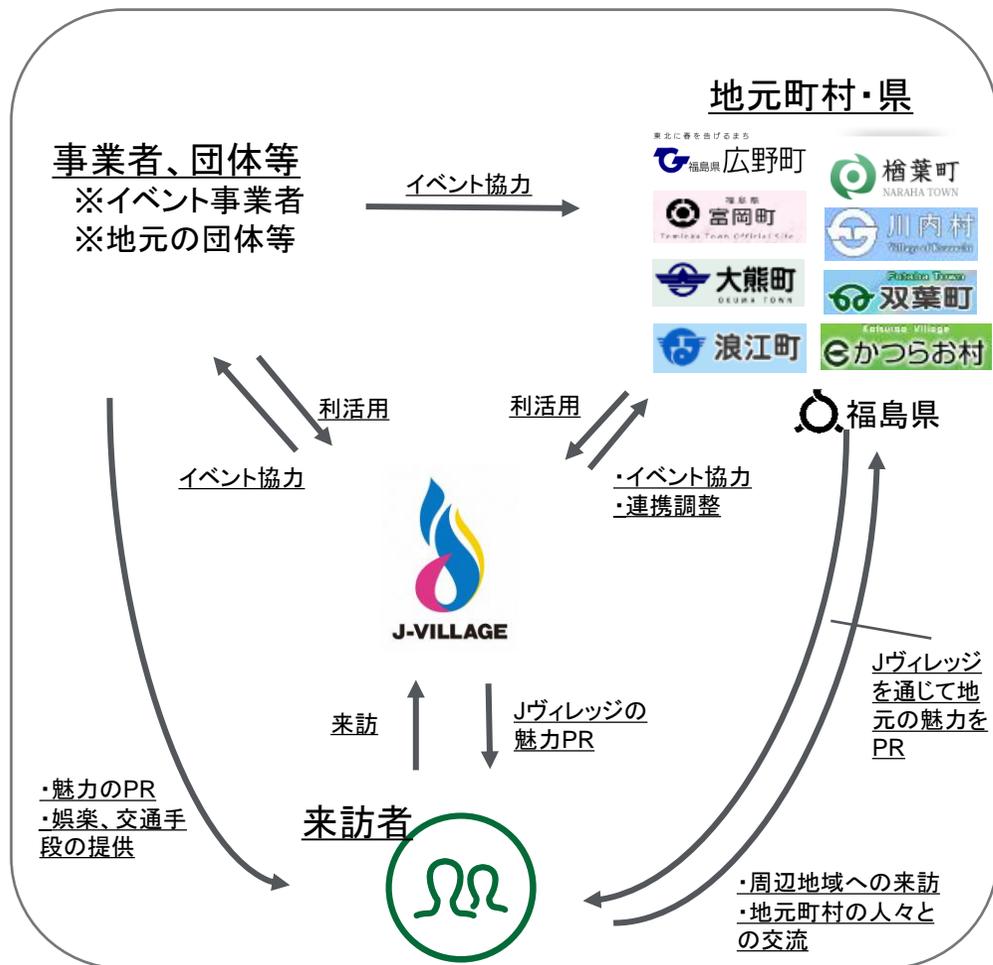
4 Jヴィレッジ利活用の中期的方向性とアクションプラン

4.1 Jヴィレッジ利活用の中期的方向性について

4.2 将来像実現のためのアクションプランについて

Jヴィレッジ利活用の効果を地元町村に波及させるため、関係機関が連携して 魅力を発信・提供

地域に広がるJヴィレッジの将来像



情報発信

- 全国の幅広い方々に、Jヴィレッジを中心とした地域の面的な魅力を発信。
- 全国の幅広い方々に、Jヴィレッジを中心とした地域のイベント、魅力、観光資源等の認知度を向上。

連携強化

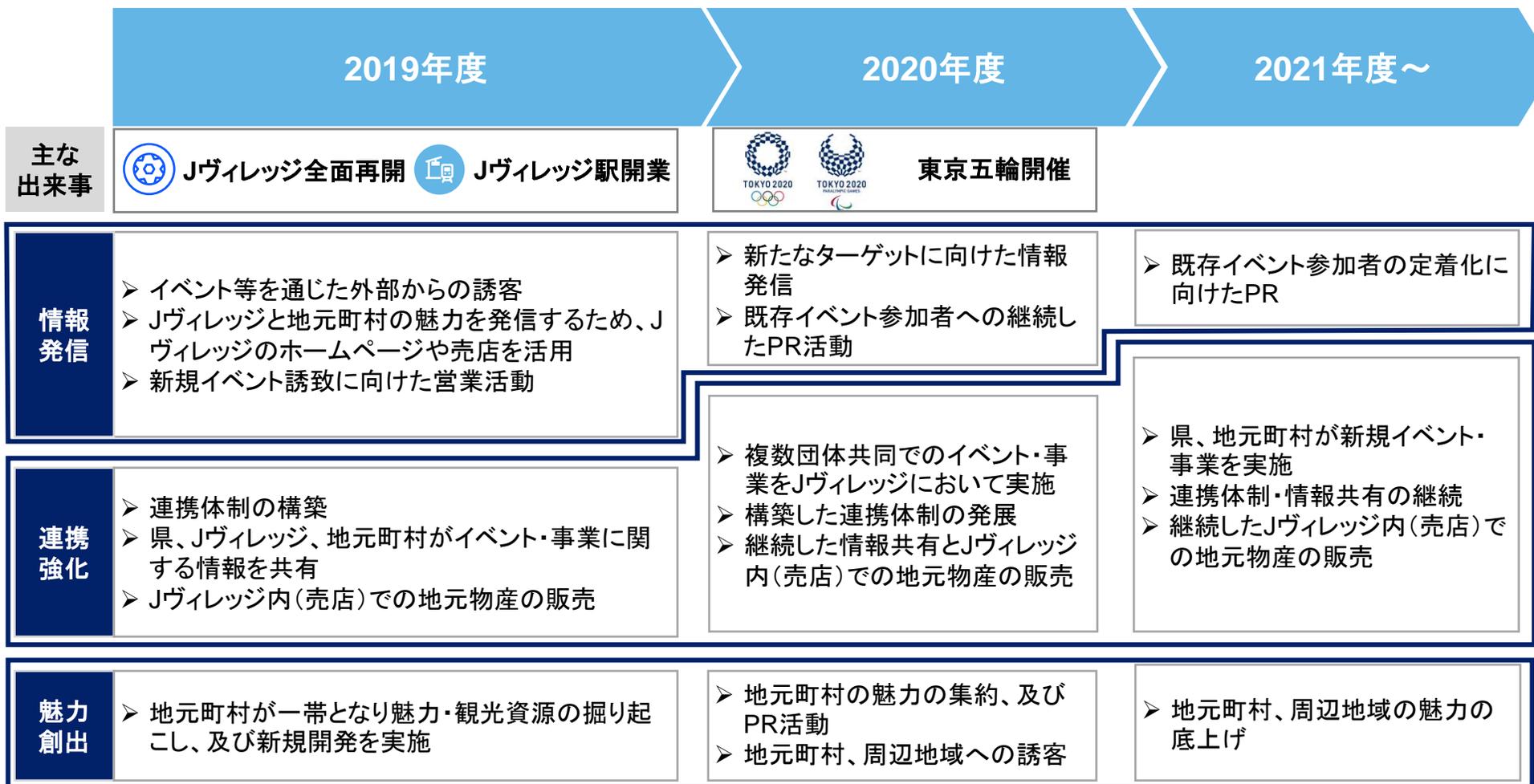
- Jヴィレッジ及び地元町村がそれぞれ事業を実施するのみならず、各者が連携しながら、情報を共有し、域外へ地域全体としての魅力発信。
- Jヴィレッジでの地域の産品販売、及び各者が連携したイベントの開催を継続。

魅力創出

- 地元町村の魅力を余すところなく掘り起こし、継続的にPRを実施。
- 観光資源、物産、娯楽等の新たな魅力をJヴィレッジや地元町村、事業者等が共同で創出し、Jヴィレッジを取り巻く地域の活性化交流人口拡大につなげる。

Jヴィレッジを結節点とした地域への効果を波及させるため、情報発信・連携強化・魅力創出を3年間で実施

Jヴィレッジの利活用を通じた交流人口拡大に向けたロードマップ



Jヴィレッジ及び地域の将来像の実現に向けた連携体制を継続する必要がある

次年度以降の連携体制(会議体)の案

<p>目的</p>	<p>■ Jヴィレッジ及び地元町村の活性化に向けて、各者が連携することで相乗効果を創出しながら交流人口拡大に繋げることを目的とする。</p>		
<p>構成員</p>	<p>■ 県 > エネルギー課 > 相双地方振興局 > ふたば復興事務所</p> <p>■ 双葉8町村 ■ 双葉地方町村会 ■ (株)Jヴィレッジ</p> <p>※必要に応じて浜通り地域の市町村に参加依頼</p>	<p>オブ ザ ザーバー</p>	<p>■ 状況に応じてご参加を依頼 > 公共交通事業者(JR東日本) > 広告・イベント実施事業者</p>
		<p>事務局</p>	<p>■ 事務局 > 県</p>
<p>検討 議題 (想定)</p>	<p>■ 活動予定と取組状況の共有 ■ 観光・イベント・物販・文化資源等各者間の情報交換 ■ 共同実施により相乗効果の創出が期待されるPR活動、イベント等の実施策の検討</p>		
<p>会議体の 位置づけ</p>	<p>■ Jヴィレッジ利活用策等検討会の後継の会議体として設立</p>	<p>実施頻度</p>	<p>■ 隔月開催 ※必要に応じて会議開催頻度を上げる</p>

Jヴィレッジ及び地域の将来像の実現に向けた連携体制(会議体)を検討する必要がある

会議体を通じた連携事項

1

情報発信

■ Jヴィレッジ及び地元町村・県が連携し、「面」として地域の魅力を発信

- 地域の情報共有(観光資源、継続的な取り組み、及びイベント等)
- Jヴィレッジ、各町村・県単体ではなく、それぞれの魅力をまとめた「広域」で、首都圏をはじめ域外へ連携してPR活動を実施
- PR活動を実施するにあたっては、SNS等を活用した効果的な連携方法を検討

2

連携強化

■ 各者が単独ではなく連携して実施することで相乗効果の創出が可能な事項の検討

- 地域でのイベントの共同実施(合同開催、時期近接開催等)
- Jヴィレッジにおける双葉産品ブースの設置・販売
- Jヴィレッジ来訪者が、双葉地方の「復興状況」、「魅力」、「文化」等を体験するために、ツアー(ホープツーリズム、企業団地見学、教育研修等)実施主体と連携

3

魅力創出

■ 機動的な事業実施に向けた連携

- 県、Jヴィレッジ、地元町村、事業者間で適時に連携を図る

4 Jヴィレッジ利活用の中期的方向性とアクションプラン

4.1 Jヴィレッジ利活用の中期的方向性について

4.2 将来像実現のためのアクションプランについて

Jヴィレッジでのイベント実施を起点として、地元への交流人口拡大等を図る

ロードマップイメージ(2019～2021年度)

No	方策内容	2019年度				2020年度				2021年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
①	Jヴィレッジ、地域に関する魅力や取組、情報の発信、及び誘客	①-1 人員の整備	①-2 ホームページの整備 ①-3 SNSの追加			①-4 積極発信								
②	Jヴィレッジで開催するイベントの営業活動※注	②-1 既存営業活動				②-2 営業準備	②-3 営業活動							
③	Jヴィレッジでのイベント実施	③ イベント実施												
④	連携体制構築、及びイベント時の地域情報のPR、及び物販	④-1 連携体制構築				④-2 連携体制の発展				④-3 イベント時に地域情報のPR、及び物販				
⑤	地域の魅力・観光資源の創出	⑤-1 地域の魅力・観光資源の掘り起こし				⑤-2 地域の魅力・観光資源の掘り起こし、及び新規開発				⑤-3 地域の独自イベントの実施				
⑥	地域のツアーイベントの実施	⑥-1 既存ツアー(企業誘致、ホープツーリズム、福島の日が見えるツアー)の実施												
		⑥-2 営業準備	⑥-3 ツアー・企業研修の営業活動			⑥-4 新規ツアーの実施								

※注釈:Jヴィレッジとしては施設稼働率向上のため、イベント事業者への営業活動だけでなく県・東北サッカー協会、パートナー企業等への営業活動も強化していく予定

Jヴィレッジでのイベント実施を起点として、地元への交流人口拡大等を図る

ロードマップイメージ(2019年度)

No	方策内容	2019年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	Jヴィレッジ、地域に関する魅力や取組、情報の発信、及び誘客	①-1 人員の整備			①-2 コンテンツ設計			①-2 ホームページの改修			①-4 積極発信		
					①-3 SNSの追加			①-4 積極発信					
②	Jヴィレッジで開催するイベントの営業活動	②-1 既存営業活動											
		②-2 新規営業準備			②-3 新規営業活動								
③	Jヴィレッジでのイベント実施	③-1 イベント実施準備			③-2 イベント実施			③-3 イベント効果検証			③-4 次回イベントの検討		
		<div style="text-align: center;"> ↓ 案件獲得 ↑ フィードバック </div>											
④	連携体制構築、及びイベント時の地域情報のPR、及び物販	④-1 県、Jヴィレッジ、地元町村での連携体制の構築											
		④-2 イベント時に地域情報のPR、及び物販											
⑤	地域の魅力・観光資源の創出	<div style="text-align: center;"> ↑ 情報連携、及びイベント協業 ↓ </div>											
		⑤-1 地域の魅力・観光資源の掘り起こし											
		⑤-3 地域の独自イベントの実施											
⑥	地域のツアーイベントの実施	⑥-1 既存ツアー(企業誘致、ホープツーリズム、福島の日が見えるツアー)の実施											
		⑥-2 営業準備			⑥-3 ツアー・企業研修の営業活動								

今後3カ年での取るべきアクションの詳細

アクション詳細

方策	■ 実施主体 ・ 連携主体	No	アクション	アクション内容
Jヴィレッジ、 地域に関する魅力や 取組の発信、及び誘客	■ (株)Jヴィレッジ ・ 県	①-1	人員の整備	➢ 追加ホームページ、及び新規SNSの制作・運用を担当する人員の整備
		①-2	ホームページの整備	➢ 人員整備、コンテンツの設計、ホームページの改修、及び運用
		①-3	SNSの追加	➢ 人員整備、PR内容検討、発信媒体の検討、アカウント作成、及び運用
		①-4	積極発信	➢ 既存と新規の情報発信媒体での積極的な情報発信
Jヴィレッジで開催する イベントの営業活動	■ (株)Jヴィレッジ ・ 県	②-1	営業活動(既存イベント)	➢ 既存実施イベントの継続に向けた営業活動の実施
		②-2	営業準備(新規イベント)	➢ 営業先の選定と活動計画、および担当者決定、資料(営業パンフレット)作成等の事前準備
		②-3	営業活動(新規イベント)	➢ Jヴィレッジ開催のイベントの営業活動 ➢ 将来の地元町村での地域イベント実施を見据えた顧客とのコネクションづくりを実施(PRも合わせて実施)

今後3カ年での取るべきアクションの詳細

アクション詳細

方策	■ 実施主体 ・ 連携主体	No	アクション	アクション内容
Jヴィレッジでの イベント実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ (株)Jヴィレッジ ■ 県 ■ 地元町村 	③-1	イベント実施準備	<ul style="list-style-type: none"> ▶ イベント事業者とイベント実施までの活動計画作成、関係事業者の確保、及び事前調整（機材設置、キャストイング等） ▶ イベント効果検証項目の作成 ▶ Jヴィレッジ駅（JRの新駅）活用に向けた広報活動 ▶ ホームページ、SNS、ポスター掲示、TVコマーシャル、電車のデジタルサイネージ、チラシのポスティングを予算と目的に応じて実施
		③-2	イベント実施	▶ イベントを実施
		③-3	イベント効果検証	▶ イベント実施後、事前に検討した検証項目に沿ってアンケート等を実施
		③-4	次回イベントの検討	▶ 効果検証結果の収集と分析を行ったうえで、次回のイベントへ向けた改善内容を取りまとめ
連携体制構築、及び イベント時の地域情報の PR、及び物販	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地元町村 ■ 県 ■ (株)Jヴィレッジ 	④-1	連携体制構築	▶ Jヴィレッジと地元町村が持つ情報の共有、共同イベント・事業の開催のための連携体制を県、Jヴィレッジ、地元町村が連携して構築
		④-2	連携体制の継続、発展	▶ 構築した連携体制を継続し、情報共有と連携を行い、更なる協力体制構築のための連携体制の発展を行う
		④-3	イベント時に地域情報のPR、及び物販	▶ 地元イベント、商品、宿泊施設のPRと販売をJヴィレッジにおいて実施

今後3カ年での取るべきアクションの詳細

アクション詳細

方策	■ 実施主体 ・ 連携主体	No	アクション	アクション内容
地域の魅力・ 観光資源の創出	■ 地元町村 ・ 県	⑤-1	地域の魅力・観光資源の 掘り起こし	➤ 地元町村の産品、観光資源、 イベントの取りまとめ
		⑤-2	地域の魅力・観光資源の 新規開発	➤ 地元町村の産品、観光資源、 イベントの新規開発 ➤ Jヴィレッジと協力した新規コンテンツの作成
		⑤-3	地域の独自イベントの実施	➤ 地域独自の物産、観光資源、イベントを実施
地域のツアー イベントの実施	■ 県 ■ 商工観光団体等	⑥-1	既存ツアーイベント実施	➤ 既存ツアーを福島イノベーション・コースト構想 推進機構が主体となって実施
	■ 県 ■ 商工観光団体等 ■ (株)Jヴィレッジ ■ 地元町村 ・ 旅行代理店	⑥-2	営業準備	➤ 営業先の選定と活動計画、および担当者決定、 資料(営業パンフレット)作成等の事前準備
		⑥-3	営業活動	➤ ツアー会社への営業活動 ➤ 新規イベントの作成
		⑥-4	新規ツアーイベント実施	➤ Jヴィレッジ、地元町村を周遊するツアーを 実施